

第26回全国中学生人権作文コンテスト県大会(主催:那覇地方務局、県人権擁護委員連合会)が行われました。

県内160校から5,501編の応募の中、うるま市では、「いじめや差別について」と題した宮城葵さん(与勝中3年)と「障がいと私」と題した新垣優美さん(具志川東中3年)の2人が奨励賞に選ばれ、法務局より委任された市の人権擁護委員から「人権週間」にちなんで受賞者へ賞状などが手渡されました。

受賞した宮城葵さんは「選ばれてうれしい。自分の作文を通して、社会からいじめや差別が無くなってほしい」と話し、新垣優美さんは「まさか賞を取れるとは思わなかったのでうれしい」と喜びを語りました。



▲人権作文で奨励賞を受賞した宮城葵さん

第26回全国  
中学生人権作文  
奨励賞受賞  
12/5



▲インターネットで鴨池小の子どもたちと会話をする勝連小の子どもたち



## ネットで広がる交流の輪 11/17

勝連小学校(前田泰宏校長)の6年生3クラスが、鹿児島市立鴨池小学校児童の依頼を受けて、インターネットのテレビ会議機能を利用したネット交流授業を行いました。授業では、鴨池小の児童らが、沖縄について質問したり、鹿児島を知ってもらおうとクイズを出して勝連小の児童に答えてもらったりしました。

また、勝連小はICTを活用して、沖縄の郷土料理や地元のエイサー文化について紹介し、ネット交流を楽しみました。交流に参加した、大城卓也くんは「とても楽しかった。次は北海道の学校ともやってみよう」とネット交流授業の面白さに目を輝かせていました。

## 第2回子どもまつり開催 12/3



貝殻細工作りに挑戦する子どもたち

市子どもまつり(市子ども会育成連絡協議会)が、石川地区公民館で開催されました。

まつりは4地域の子どもの会が一同に会し、伝統文化、実践活動等の発表や体験を通じて、異年齢の仲間づくりを広げ、他地域との交流・情報交換を図り、子ども会活動をより活発なものにするのが目的。

会場では、シニアリーダー(中・高校生)の運営のもとに地域活動報告や子どもたちの意見発表、伝統のエイサー、獅子舞、琉舞などを舞台上で元気よく披露。

また、フロア内では作品展示や貝殻を使った貝殻細工、竹笛作り体験が行われ、多くの子どもたちが交流しながら作品作りを楽しんでいました。

## みんなが憩える道路になってほしい! 11/26



僕たちが植えた木、しっかり育ててほしいな

土地改良施設の適正な維持管理について農道利用者の理解と環境美化のため与那城西原で、県営畑地帯総合整備事業として整備された、農道約1.5kmの一部に、「西原地区ふるさと街道創造運動(中部農林土木・市与那城西土地改良区主催)」として植樹が行われました。植樹には、県や市の職員をはじめ西原区民、農業関係者など約60人が参加し、ヒカンザクラ、ソウシジュ、ハイビスカスなど354本を植樹。

同区の宮城吉一区長は「最近では車だけでなく、ジョギングをする人の農道利用が増えているので、将来それぞれの木が育ち四季に花を咲かせて、利用者の憩いの場になってくれればと思います」と話しました。